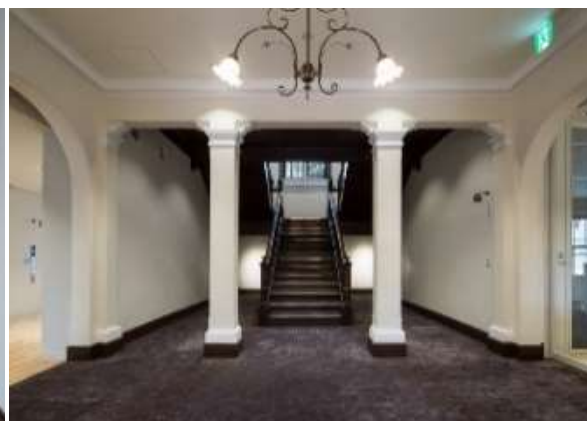
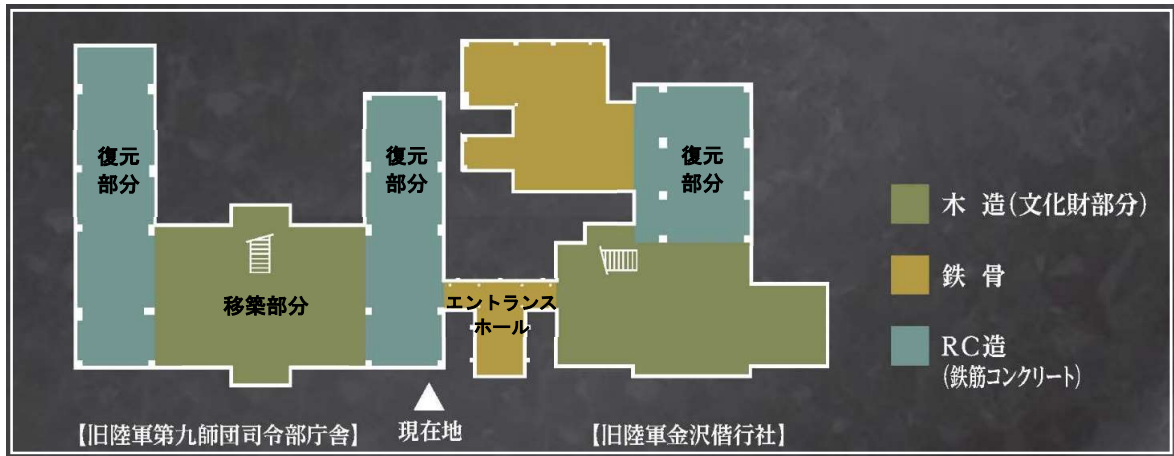


# 国立工芸館(東京国立近代美術館工芸館)



国立工芸館(東京国立近代美術館工芸館)は、国登録有形文化財である「旧陸軍第九師団司令部庁舎」および「旧陸軍金沢偕行社」を移築・活用し整備を行った。明治になって導入され始めた西洋建築の特徴や技法を保存するとともに、長い歴史の中で失われていた部分を復元し、建設当時の姿を再現した。





構造別平面図



夕景(全景)



夕景(エントランス)

明治期の洋風建築の  
移築・活用

登録有形文化財の価値を維持するため、移築部分の意匠を保存するとともに、可能な限り古材を再利用した。外観は往時の姿を復元し、また、内部は歴史的価値が高い天井や柱の漆喰装飾、ケヤキ造りの重厚な階段などの移築・復元を行った。

構造計画

失われた第九師団司令部庁舎の両翼部分と金沢偕行社の講堂部分の復元を検討するにあたり、外観は移築部分と復元部分の境界がわからないようにするため、また、公開承認施設としての性能を確保するため、構造計画は移築部分(木造)と復元部分(RC造)を一体とする平面混構造を採用した。

夜間景観への工夫

建物の特徴的な意匠を堪能していただくため、ライトアップを施した。外壁をくっきりと浮き上がらせるため、下から上方向に垂直に照明を当てることに加え、外壁を彩る窓枠一つひとつに照明を取り付け、窓枠装飾を強調して照らし出すなど工夫を凝らし、都心部の夜間景観の魅力を高めている。

DATA

④文化体育施設  
金沢市出羽町地内  
平成29年12月～令和2年3月  
鉄筋コンクリート造+木造 一部鉄骨造  
地上2階、地下1階  
延べ面積 3,072.22㎡